寺崎組新聞

発行所　寺崎組新聞社

寺崎キレる！

去る6／18日曜日、ホンダ主催のバイクフォーラムに組長が出席した。メインテーマは「バイクキャンピング」

他の出席者は釣りがメインのカメラマンとゴールドウィンの製品開発担当者の2人だ。カメラマンは釣りしか頭に無いので、食事には手を掛けないと言っておりそれぞれのやりかたがあるのだなと少しは感心した。しかし話が進むうち様子が変ってきた。組長は人に頼らず何でも自分でするので作業分担派のカメラマンとは話が合うはずも無く、又ノウハウの面でも組長の方が何枚も上手なのでプライドをだいぶキズつけてしまった様だ。それでカメラマンはエキサイト。中でも笑ってしまうのはカッパの話。最後の砦のごとく出したのは洗濯後の目止めのついて話しはじめた。「洗濯後は目止めはしっかりしています。このような事は寺崎さんの方が詳しいと思いますが」と言った次の組長の一言「私はカッパを洗った事はありません！」場内は大爆笑である。その後の景品付のジャンケン大会では組長がキレて「てめーら元気がねえぞ」と大声で話す。

今回のキャストは旅の形が違い過ぎ組み合わせには無理があったと思う。ゴールドウィンの人は全く印象に残らず忘れてしまった。ホンダのネーちゃんが奇麗だったのが良かった。

記　地下鉄

さくらの皆様　ごくろうさん

GW野宿塾顛末記

「信州は遠かった」の巻

零戦の興奮さめやらぬまま利根川の夜は明け翌5月6日、GW野宿塾の後編は始まるのでした。

少々古い話で恐縮ですが、ここからは手伝い人こと（分らない人はB・O誌7月号参照）自衛隊北脇が御案内いたします。

さていつもの様にうだうだと朝飯を食いながら本日の行動などを検討し、本日は一路甲州を目指すと言うことで一行は常磐高速の谷和原ICへ向かうのでありました。ここで酔っぱらい金子さんは自宅の方向へ別れ、残りの一行は常磐道を一路首都圏へ・・・。

本州の道に不慣れな私には首都高というのは、迷路に等しく行先標識は、ちんぷんかんぷん。ここでみんなに離されては、野たれ死ぬまでここを彷徨羽目になりそうなので、エンジン不調で遅れがちの税金杉本さんを、ほったらかして必死の形相でくっついていくのでありました。更に、すりぬけに不慣れな私のために一行は車の後ろをたらたらと着いて行く事、小一時間、途中で大工庄司さんが自宅方面へ別れ、一行は中央高速へなだれこむのでありました。石川P・Aで一休み、協議の結果天気も良いと言うことで帰宅の予定だった地下鉄前原さんも、このまま本日も野宿と言う事に決定し、最終的にメンバーはカメラマン沢海、地下鉄前原、税金杉本、そして私こと自衛隊北脇の以上4名で旅は続くのでした。

沢海さんが、携帯電話のバッテリーを充電したいと言うのでとりあえず、上野原の豪邸？沢海宅へ向かうのでありました。途中、エンジン不調の税金セローはパワーダウンの一途をたどり登坂車線の人となり、トラックにも追抜かれる始末。結果あれよあれよという間にバックミラーの彼方に消え去ってしまい、あわやコースアウトかと一行を心配させる一幕もあったが、何事もなくよっこらしょっと言った感じで上野原インターを降りて、すぐの閑静な？住宅街の一角に到着するや否や一行はまるで自分の家の如くどたどたと上がり込み、零戦のビデオは見るわ、くつろぐわと小一時間ばかりうだうだとした後、再び高速の上の人となり一路、勝沼I・Cを目指す。

高速を降りた一行は塩山の市内で買出し、酒やら食糧をしこたま買込み、野宿地の見当をつけるべく相談の結果沢海さんが富士山を一望出来る所が在るとの話。異存をさしはさむ余地もなく満場一致で本日の野宿地はそこに決定した。塩山から牧丘へ抜ける柚口林道を北上し途中の展望台への道を登り詰めたどんづまりが本日の宿となりました。

造成中の展望台でテント4～5張り分のスペースがある。夕日に照返してうっすらと見える富士山を背景に、一同はいつもの様にビャッビャッとテントを張り、パパッッと焚火とめしの支度をし、プルトップを開けるのももどかしく、気持ちの良い夕日の中、パシュッといつもの様に乾杯するのでありました。ここのところ5月らしからぬほど夜も暖かく（北海道生活が長かった私にはむしろ暑いっ！）あまり野宿日和とはいえない日々だったが、この日は天気も良く標高も高いとあって、久々に5月らしく焚火の恋しくなるような夜で、日が落ちた後は月など天頂に眺めながら、前日とはうって変わって静かに夜は更けるのでした。

一夜明けて翌5月7日、気持ち良く晴れ渡った朝、私の休みも本日を入れて残すところあと2日。地下鉄と税金の両名は明日より仕事で真直ぐ帰るとの事。沢海さんは組長と甲府郊外のホームセンターで落ち合い、B・O誌の取材でテントを自作するための材料を購入するらしい。私の予定は最初、塾が終わったらその足で信州、あわよくば中部の一部にも足を伸ばすつもりだったのだが、青木さん宅襲撃に始まり零戦見物と流れ流れて本日に至ったわけで、信州に行っておやきを食べるという目論見はもろくも崩れ去ったのでした。ここで私は開き直って、このまま組長の家へお宅拝見ついでに新車で来たばかりのNewジムニー（一部の人からは分不相応との声あり）を見て近所にたくさんあるという温泉なぞをハシゴでもするかという結論に達してしまったのだった。

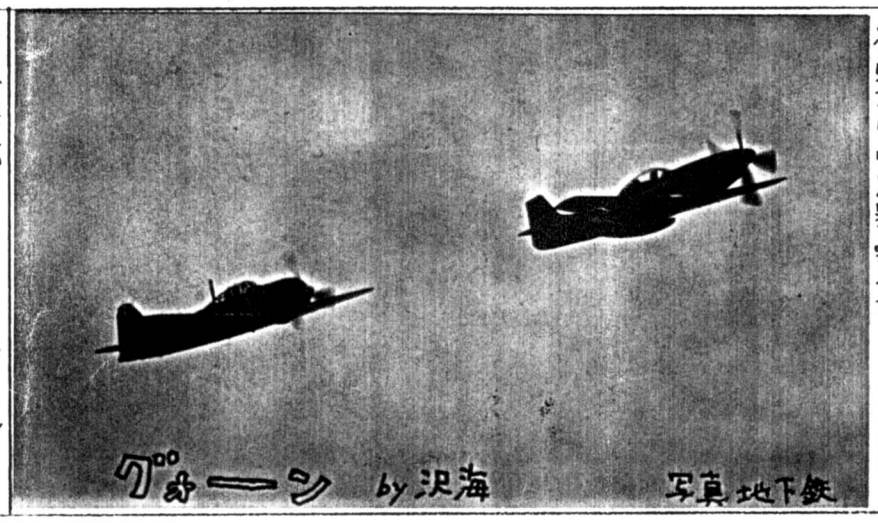
本日の行動がまとまった所で、いつもの様に、シュラフなどを干しながら朝めしを食い、朝の儀式をすませ、テントの撤収をし、野宿地のあとかたづけをやって出発となった。時間があれば水ヶ森林道を行くつもりだったが組長との待合わせの時間もせまっているので、来た道を逆もどりし、幹線道路に出た所で、地下鉄、税金両名と別れ、一路甲州地区随一と言われる？ホームセンターくろがね屋をめざす。小一時間ほどで無事到着。沢海さんは組長を見付けられなかったのか、そのまま駐車場の奥へ行こうとしたがジムニーと組乗りの私は一発で組長のジムニーと組長をめざとく見付けたのだった。沢海さんがここへ至るいきさつを話すと、組長一言「一緒に来るんじゃないかな」という気がしたんだよな～」。やはり組長には読まれていたらしい。まあそんなわけで、そそくさと店の中へ入りテントの材料、その他もろもろの格安ツーリンググッズ…？を主婦のごとく一円でも安くをモットーに探し回るのでありました。お金を出せば良い物は手に入るが、安い物をいかに夫して使うかというのは、なかなか難しいものである。一通り必要な物を揃えて、値段や品質で折合いがつかなかった物は、もう一軒のホームセンターで買い揃えた。ついでに私は、野グソ用のステンレス製移植ゴテを買い、一路早川町塩之上を目指すのだった。途中酒屋に寄ってワイン等を買い込んだり、ヘルメットを拾ったり？？しながら南アルプス街道をひた走りジムニーのあとをついて行くのでした。川を渡ったあたりから道はいよいよ狭くつづら折れとなり、住んでいる人には申し訳無いのだが果たしてこの先に人が住んでいるのだろうかと段々心配になってきた所へいきなり集落がひらけた。猪防止用のゲートを開け、さらに登ったり下ったりしてようやく到着と相成りました。

到着してややすると昼食となり、すっかり御飯をおよばれしてしまった。メニューはというと北海道産ジャガイモをふんだんに使った手造り特大俵コロッケ、第一作目から組員中にその名をとどろかせた十勝豆の煮物、しかし組員の間で知れ渡っているその味とは全く違い両方とも大変おいしくいただきました。（おせじでも何でもなく真面目に・・・特にコロッケ）私が北海道に住んでいた頃、内地の人に「やっぱりジャガイモは北海道のがうまい」と言われ、こんな物どこで食ってもたいして変わるわけがないと思っていましたが・・・やっぱりジャガイモは北海道に限る！

話はいささかそれてしまいましたが、飯をよばれてしまったからには働かざる者食うべからずで、結局温泉はしごツアーは諦めて、組長のテント作りを手伝う羽目になってしまいました。（故に手伝い人となったわけです。）あ～でもない、こ～でもないと言いつつ組長のアバウトな性格を再認識しながら、晴れて防虫ネット完備の超チープ、ドカシーテントは完成となりました。この企画で使用される空冷、規制前のハスラーは私が初めて乗ったバイクでありまして、試乗しながら「こんなに非力なバイクだったかな～」と昔を思いつつアクセルをひねるのでありました。その後、下の集落の温泉へひとっ風呂浴びに、モク臭いADバンでくり出して、地元産のアイスクリームなどを買込み、夕食兼宴会となりました。夕食のメニューはと言うと、近所の山で奥さんが摘んで来た山菜、ノビル・ユキノシタ・タラノメetc、これを料亭で出される様に塩に抹茶を混ぜた物につけて食べるというなかなか凝った物でした。昼のコロッケの残りなどをバクバクと食べながら酒を飲みすっかり出来上がってしまった私は途中で脳死状態となり早々と床に就いたのでした。

翌朝、うす曇りの中、皆さんに見送られて塩之上を後に一路、横須賀を目指し、私のGWの旅は終わったのでした。チャンチャン！

自衛隊北脇



零戦竜ヶ崎の空を飛ぶ
左が三菱零式艦上戦闘機52型
右がノースアメリカンP-51D
零戦の方はパーツもないので出力は70%
におさえての飛行だそうです。
発動機は中島製栄21型　1130馬力

編集後記（右のはヒコーキなんっって）

大工■国分寺は霧島上野原は道
地下鉄■沢海さんO戦大事にしてるでしょうか
酔■霧島へ行こうと言ったのは私です
税■でえく！バーチャファイターで勝負しろ
自衛隊■歯ブラシもシュラフもエッグにおいてます
栃■だれか猫もらってくれー大変だよー
元■BMWK75買ったくらいで騒がぬように
毎■背骨さすりつつまた仕事してます

「原稿大募集のお知らせ」

良い子も悪い子も寺崎組もその予備軍も自分らしさを原稿で写真でマンガで自分だけの表現でしてみませんか？送り先は左記

スタジオエッグ寺崎組

新聞購読料振り込み先

第一勧業銀行
普通口座
口座名　寺崎　勉
組新聞購読料／年間　2千円以上

草原、遥かなり。

第4回

寺崎　勉

四、トラブル

アルバイヘールの町を過ぎると本格的なラフロードとなる。

道は荒れ、風景の中に樹木の姿は消えてゆく。あの丘の向こうには何があるのだろうか。あの丘の向こうは、また丘なのかも知れない。

空気がどんどん乾いてゆく。

未知なる場所へ向かって旅する時は、いつも不安と期待で一杯になる。

そんな私の足元をすくうように、私が乗っているバイクの後輪に異常が発生する。日陰などない炎天下、さっそく修理が始まる。後輪のシャフトを引き抜くと同時に、小さな鉄の玉がバラバラと落ちてきた。

3個あるはずのベアリングのすべてが破損、走行不能である。この旅の意志決定力のすべては、私にある。

旅には、流れというものがある。

流れに逆らうという事は、積み重なれば旅の失敗につながる事もある。そんな経験を何回もしながら、私は旅を続けてきた。

今日の行動は中止、この近くでキャンプする事にした。今後の事は、そこでゆっくり考えれば良い。

先行していたバイクが、私の異常に気付き引き返してきた。陽炎の向こうにヘッドライトがかすかに揺れる。

眼鏡をかけた私にはそれだけしか分からない。モンゴル人の通訳氏は、バイクが何台で誰と誰がどういう順番で走っているかさえ見えると言う。この目の良さには舌を巻く。私達日本人には双眼鏡でやっと確認できるだけだ。

そうゆうモンゴル人達だから、へたな所でキャンプするとウヨウヨ寄ってくるに違いない。道からは見えない丘の向こう側でキャンプすることにした。

夕方の6時だというのに、まだまだ日は高く、暑い。

日本の感覚だと、午後の2時か3時くらいだろうか。そして風が強い。

少し傾きはじめた西陽、逆光の中に土埃の尾を引いて走るトラック。

クレーターのような山と大平原。

その中にポツポツと点のようにしか見えない白いゲル。

風はひたすら乾き、なまぬるい缶ビールの泡が飛ぶ。

さあって、どうすっかなっと。

とりあえずバンザイ氏とショーギ氏は、あの何もないかに見える町で部品を捜す事になった。無ければ会社に電話してスクラップ部品の空輸か。

何事にも行き違いの多い国、考えただけで気が遠くなる。バンザイ氏にまかせるしかない。

「この国にはまだ旧ソ連風の官僚体質が残っていましてね」といたずらっぽく笑ったバンザイ氏は缶ビールを6本持って町へ行った。

強い風に悪戦苦闘しながらテントを張り、斜めになった陽を浴びながらビールを飲む。そこえと遠くから2頭の馬がやって来た。馬に乗った遊牧民の親子連れである。

今までに出会ったモンゴル人は、私達の事を宇宙人でも見るかのような、好奇心だけの目付きだった。

しかし、この親子連れの目付きはとても柔らかだった。この土地にしっかりと根差して生きている人の目だった。

目やにだらけの馬に乗せてもらった。モンゴル相撲をやった。たむしだらけの子供の顔が笑った。とても相手にならないぐらい強いので　足相撲、腕相撲、指相撲までやった。みんなで笑った。

風がぱったりと止んだ日没頃、親子は帰って行った。

月明かりに、クレーターが青白く光る頃、ランクルは帰ってきた。

「直った、直った」顔に笑顔が一杯だ。

トラクターの部品を無理矢理はめ込んだらしい。ドライバーでこじったような傷がたくさんあるけれど、とにかく直った。日蒙歌合戦がいつまでも続く長い夜となった。

特選中古車情報

ヤマハセロー16－27
エンジン良好　リアサス不調
バッテリー、チェーンほとんど新品
稀少車　黄色　自賠責切れ
取りに来る方　4万円以上現金
米20キロ交換可

（夜8時以降）　税金杉本

TWへの道

第4話

さて、XLRを手離して約三か月間次のバイクを考え続けていた。候補車はセロー、SX、TLR等だったはずが、当時のバイク屋さん、特にYSPの店頭在庫に奴がいた、奴が：

変な奴…と思っていたら9千キロで19万てのがあって、…いろいろあって……88年早春、いよいよTWライダー柳沢の誕生である。　そして4月、天龍川河口での寺崎組々会に初参加させていただいた。

その後のTWの躍進とやなちゃんの活躍は皆様も良く御存知であろう。

90年夏、新車の2代目TWに換え、猛暑の94年7月、ついにオーナーズクラブの　ざ・TW組の発足である!!

次回感動興奮最終回……!?

猫が部屋にやって来た。

通行中の車が仔猫を避けながら走り去って行く。仔猫は路上に座り込み、怯えて動かない。自転車に乗った男が通りかかる。男は横浜市鶴見区在住、36歳会社員、髪は薄いが脂肪は厚く、帰宅途中である。男は猫を拾い、路肩へ避難せざるを得ない。片手の掌に乗る程の小さな猫は、その両眼が目やにだらけでよく見えていない。

後の展開を思うと男は悩むが、仕方無く、動物病院へ連れて行く。治療、目薬、鼻薬、飲薬で六千円と少々。健保は役立たない。猫と薬と診察券を持って帰宅する男は、アパート住まいの独り暮らし。本人以外の居住も動物飼育も非合法である。六月一日夕刻の出来事であった。

ミルクを飲ませ、薬を与え、粗相を叱る日々が過ぎる。時折の通院で犬猫病院の受付の可愛いお姉さんに会える事が楽しい。猫は右眼が回復しつつあり、部屋中を元気に駆け回っている。専用トイレの使用もほぼ修得済みだが蚤駆除のシャンプーは欠かせない。

そろそろ離乳して固形飼料を食べてもらいたい。牝の三毛猫で、呼び名は「ねこ」。七月十五日現在、体重は約四百グラム。今後どうすれば良いのか、途方に暮れている男を私は良く知っている。

匿名希望　24号

組長のお宅拝見

組長のお宅拝見

17号杉山哲朗の巻

ある取材（オートキャンパーなんですけど）で杉山宅を訪れる機会に恵まれた。杉山氏と待合わせたのは組員おなじみの中田島砂丘の入口、国道150号線の掛塚橋の下。中田島砂丘での組会で杉山氏は当時「家はすぐ裏」みたいな事を話してたような気がする。フェアレディZでサッソーと現れた杉山氏の後について沢海氏のランクルは走る。すぐ裏だというから、田んぼの真ん中にポツンと電気屋があるのかと思いきや、行けど進めど田舎の電気屋はない。結局、田んぼも国道1号線も突っ切り、新幹線のガードもくぐり国道257号線の浜松市内に出てしまった。中田島砂丘のすぐ裏は、浜松市の中心街のすぐはずれだったのである。

浜松の中心地からだと国道の左側、ガソリンスタンドの並びに杉山氏のおかあ様が経営する「東栄電気」のビルが建っている。もし野宿の折に通るような事があれば単3電池の1本も買ってみてはいかが。

さて、中がすごい。地上3階建て、1階は店舗と住宅、庭には秋田犬のコロがいる。と、そこまでは普通の田舎の電気屋だ。2階に上がるといきなりショーウィンドゥの中のF1、その他F86・・目が点。2階はプラモデルの工作室と貯蔵室、杉山氏の寝床となっております。3階はですね、何とですねラジコンの飛行機のまた工作室と貯蔵室なんですねこれがまた。バルサをチマチマ削り、好きだというウィリアムス・ルノー、マンセルカラーのチマチマ塗装もやるんだからまったく。チマチマ工作のチマチマ工具などピチーッと整理整頓、理路整然、これじゃあ今時の嫁っこの入れる隙間などあるわけはない。と、そう思ったわけだけど誰かこの几帳面男に嫁を紹介してやってくれーっ。

（組長記）

見よ!! これがオタクの見本である。見本にしないように。

組長執筆中雑誌

○ダートスポーツ　造形社　毎月24日発売
○バックオフ　フィールド出版　不定期
○オートキャンパー　毎月6日発売
○サイクルフィールド　八重洲出版　毎月15日発売
○CCV　山海堂　組長隔月
○アウトライダー　ミリオン出版　毎月20日発売
10月号　9月1日発売
（季刊）大日本絵画　夏号7月末発売

組長単行本

「バイクキャンピング」　山海堂

組員がたくさんでているけど浜崎さんは出てないゾ。

絶賛発売中！

平成七年度寺崎組宴会地

塾＝8月13日12時集合
岩手県滝沢村
滝沢分かれにある酒屋コンビニ

塾＝9月23日12時集合
岐阜県坂下町坂下駅前

宴＝11月25日正午より
東京都奥多摩町倉戸山頂上

宴＝12月23日正午より
山梨県韮崎市小武川上流
甘利山青木鉱泉分岐近く

宴＝平成8年2月24日正午より
群馬県利根川河川敷
エンデューロ大会

凡例　宴…読んでの通りたんなる宴会である。当日の正午から翌日の正午まで組長がいます。

塾…組長と一緒に走り野宿します。12時集合で1時出発。